

MEIJI UNIV.

HARMONICA  
CONCERT

74th



## 明治大学校歌

◇作詞 児玉花外  
◇作曲 山田耕作

1. 白雲なびく駿河台眉秀でたる若人が  
撞くや時代の暁の鐘文化の潮みちびきて遂げし維新の榮になふ  
明治その名ぞ我等が母校明治その名ぞ我等が母校
2. 権制自由の揺籃の歴史は古く今もなほ  
強き光に輝けり独立自治の旗翳し高き理想の道を行く  
我等が健児の意気をば知るや我等が健児の意気をば知るや
3. 靈峰不二を迎ぎつつ刻苦研鑽他念なき  
我等に燃ゆる希望ありいでや東亜の一角に時代の夢を破るべく  
正義の鐘を打ちて鳴らさむ正義の鐘を打ちて鳴らさむ

### 明治大学ハーモニカ・ソサエティの歴史

我が明治大学ハーモニカ・ソサエティは、大正7年に佐藤時太郎氏を中心に結成され、翌8年春、小石川植物園において我が国で最初の合奏が同氏の指揮の下に演奏されました。そして我が国ハーモニカ界の元老川口章吾先生（現在当ソサエティ顧問）を迎えて指揮育成を受け、1年余の準備と練習を積み、第1回発表演奏会が大正9年10月28日、神田YMCAホールにて開催されました。演奏会は絶賛を博して大成功のうちに無事終了し、ここに当ソサエティは世の中に第一歩を踏み出したのです。当時は国産ハーモニカの種類も少なく、メロディハーモニカ、バリトン、バス、コントラバス、オクターブの5種類に過ぎず、合奏といっても5部合奏程度で、我が国ハーモニカ合奏の黎明期においては止むを得ないことでした。また、この頃明大には校歌がなかったのですが、当ソサエティの幹部鈴木重吉氏等の尽力により、山田耕作作曲による現在の明治大学校歌が生れたのです。大正12年の関東大震災をへて、大正13年頃より、今までの曲に飽き足らず、次第に高踏的なものを演奏すべく半音ハーモニカを併用し、序曲、歌劇等に手を染め初めたのです。そして部員一同監督指揮者の命を良く守り、規律を重んじ、一糸乱れぬ団結の結果、ハーモニカ界において第一人者としての不動の地位を築き上げたのです。その後数度の戦争に際し、危機に直面することもありましたが、音楽に対する情熱と、ソサエティに対する愛情とにより、ますます発展の一途をたどってまいりました。ハーモニカの種類もいろいろ変り、昭和39年には従来の複音ハーモニカを全廃し、シングル・ハーモニカに変えました。年々、ソサエティの気風も変遷していますが、長い伝統の重みあるところへ、いわゆる終戦っ子、現代っ子も入部し、新旧の気質が入り混り、そこに現在の輝かしい伝統が形成されつつあります。一年後には創立50周年を迎えるわけですが、またそこで新しい出発をしてゆきたいと思えます。



Meiji UNIV

**HARMONICA  
SOCIETY**

**第74回**

**定期演奏会**

**1967年11月4日(土) 6:00 PM**

**神田 共立講堂**

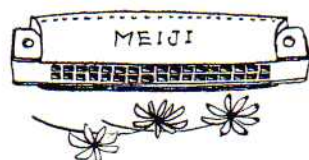


# PROGRAM

## Section I 古典音楽

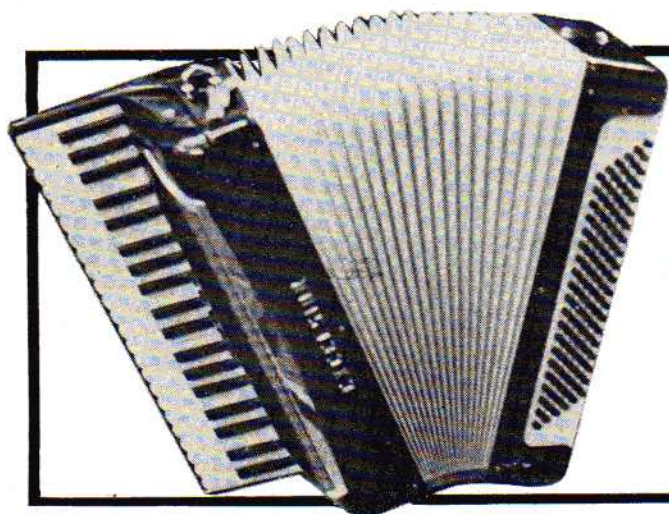
1. 「ペルシヤの市場にて」…………… アルバート・ケテルビー
2. 「カルメン組曲」より…………… ジョルジュ・ビゼー
3. 「ハンガリア狂詩曲」第2番嬰ハ短調… フランツフォン・リスト

## Section II 民謡「<sup>ふるさと</sup>あなたの故郷」



1. 木曾節
2. ソーラン節
3. 会津磐梯山
4. 斎太郎節
5. よさこい節

etc.



■カタログ進呈■

世界の名器

# エセルミア

アコーディオン

株式会社 **谷口楽器**

東京都千代田区神田駿河台1の8(明大正前門)  
TEL (291) 2 7 1 1 - 3

Section III ラテン・軽音楽

1. 愛する為に愛されたい
2. タンゴ・ボレロ
3. モアー
4. 荒城の月
5. マンボ No.5


etc.



— GUEST —

加藤 登 紀 子

1. 真夜中の電話
2. ギターを弾こう
3. 虹は消えても
4. 赤い風船



管・弦・楽器の御相談は 在庫豊富  
信用ある技術の

お茶の水駅前 音楽教室・修理工場完備

株式会社 下 倉 楽 器

東京都千代田区神田駿河台2-2 TEL. 東京 (293) 7706(代)-9



# Section 1 Explanation

## ■ 古典音楽

司会 白石和弘

1. 『ペルシヤの市場にて』 作曲 アルバート・ケテルビー 指揮 船本直夫  
編曲 甲斐靖文

ケテルビーの代名詞化した曲だが、西欧人の考える東洋風のメロディーによって幻想的に描いたもの。ペルシヤすなわち現在のイランはかつて強大を誇ったペルシヤ帝国の遺跡も多く、砂漠や荒野がほとんどだが、石油国のひとつとしてイラクと共に注目を浴びていること衆知の通り。首都テヘランは人口約100万、海拔1,200メートルの高原都市で、近代化されたビルディングや学校、アパートメントが建築されつつあるが、市の南部区域にあたる旧市街は、いかにもペルシヤ帝国時代を回想させる情緒たっぶりのせまい曲りくねった街路で、その市場（バザール）はエキゾチックな情景として天下に名高い。この曲はそんなペルシヤの市場の幻想であり、はじめに東洋風とかトルコ風とかいわれるリズムが出て、らくだをひく鈴の音がきこえ、乞食がお金をねだったりする声が歌われ、ついでチェロとクラリネットに当るパートがものうい調子の旋律をひくが、美しいペルシヤの王女が市場にあらわれた情景でもあろう。道路には蛇使いや奇術師がさまざまな芸をみせ、物売りはめずらしい各地の産物を売る。そこへ回教主が市場を通り抜ける行列、乞食の歌声、王女は乗り物で優雅に去り、隊商たちは砂漠へと去って行き、しずかに曲は終わりに近づき、突如はげしい強奏で結ばれる。この『ペルシヤの市場にて』は、間奏曲の場面と傍註があり、作曲年代は1920年代と思われる。イ短調、4分の2拍子、モデラートで東洋風な（ペルシヤ固有の音楽ではなくて、ヨーロッパ人が考えての東洋風な）行進のリズムである。

2. 『カルメン組曲』 作曲 ジョルジュ・ビゼー 指揮 船本直夫  
編曲 甲斐靖文

### 1 前奏曲

モデラート、4分の3拍子で、無気味な重苦しい旋律。この旋律は「運命の主題」と呼ばれているもので、女主人カルメンの運命を予言するものである。—第1幕—

### 2 アラゴネーズ

8分の3拍子の舞曲。この旋律はスペインのアンダルシア地方の民謡舞曲から採ったもの。華やかな中にソプラノ・ハーモニカのむせび泣く様な旋律が胸を打つ。—第4幕—

### 3 間奏曲

非常に牧歌的な音楽であって、歌劇の気分を一新している。ギター伴奏、フルートのソロではじまる。—第3幕—

### 4 アルカラの竜騎兵

ホセがカルメンに逢いに行く時に口ずさむ歌の旋律が使われている。陽気であり、そして又一抹の哀愁を帯びている。

—第2幕—

### 5 終曲

激しい旋律は、闘牛士の行進の音楽。3部形式で、途中、ヘ長調の部分は有名な闘牛士の歌の旋律である。そして再びにぎやかな音楽になり、最高潮に達してパッと終る。

## 製図機械と製図板

三角スケール・T定規・ヘンミ計算尺

株式  
会社

原計器社

大学御用—良品勉強（神田日活館ナラビ）  
TEL (294) 5 0 1 6 ~ 7





# Section 1 Explanation

## 3. 『ハンガリア狂詩曲』第2番嬰ハ短調 作曲 フランツ・リスト 指揮 鈴木 淳 編曲 楠 司郎

リストの名作として有名なハンガリア狂詩曲は15曲あって、1835年から1850年にかけて、その多くはリストがピアニストとして最も華やかに各地の演奏旅行をしている時代に作曲された。長い間、ウィーンにパリにと、音楽生活を送っていたリストが、大ピアニストとして、故国ハンガリアに錦を飾った時には、殆んど故国の言葉を忘れかけていた。その時聞いたジプシーの音楽は、28歳のリストの若い豊かな感受性を、強く刺激した。彼は熱心にこれを読み、旋律を集めて、これを彼の豊かな音楽性に包んで、それまでだれも考えおぼなかった「ハンガリア狂詩曲」を、得意のピアノ曲に書き上げた。

ハンガリアの舞曲の中で一番特色のあるのはチャルダッシュで、これはラッサンという哀愁のこもった「緩やかな部分」と、フリスカと呼ばれる情熱的で、急速なリズムをもった激しい部分からできている。このチャルダッシュ舞曲の形が多くハンガリア狂詩曲中に用いられている。原曲は、ピアノ独奏曲で、ピアノの華々しい技巧を十分に用い、ジプシー特有の楽器類の音を、ピアノで表現して、甘美な旋律性と明快なリズム性をもつ、大層色彩豊かな音楽にまとめあげられている。その後リストは、弟子のドブラーに手伝わせて6曲を管弦楽に編曲し、一層ポピュラーなものにした。緩やかな速度の序奏で重々しく始まり、アンダンテ・メスト（悲しく）の哀愁を帯びたラッサンに入って抒情性にひたる。これはハーモニカ、アコーディオンとピアノで奏されるが、ここで奏者が気をゆるすと、情緒も何もない、気のぬけた演奏になってしまう。アコーディオンのカデンツァをはさんで、ソプラノハーモニカの軽快な舞曲風な調べから出て、再び序奏の重々しい動機で投落に入る。つづいて出るフリスカの部分では、4分の2拍子のヴィヴァーチェで、先ずラッサンに出た軽快な舞曲風な調べに起り、力を盛り上げて中心部の豪壮な舞曲に入る。そして新しいメロディーが点滅しながら、終曲へとかけ込んで行く。

### □ アルバート・ケテルビー Albert William Ketelbey

アルバート・ケテルビーは、1875年に生まれたイギリス人だった。そして幼時から驚くべき音楽的な天才ぶりをみせ、ピアノを奏し、また特に作曲の面では早熟な子供だった。なにしろケテルビーの神童ぶりは有名で、彼の作品が音楽祭で彼自身が演奏し、好評を得たのはまだ11才の少年の時である。また13才の時、ヴィクトリア女王奨学金の資格を得るコンテストに優勝し、ロンドンのトリニティ・カレッジに入学した。30才をすぎてから作曲の方へ主力をそそぐようになり、かずつの真面目な作品を書きつづけていった。けれどもそうした彼が心血をそそいで完成に努力した作品はほとんど認められず、意外にもほんのひまつぶしのつもりで書いた曲が大ヒットしてしまった。いわく「ベルシヤの市場にて」であり、また「中国の寺院の庭にて」や「エジプトの秘境にて」等の描写的な空想から生み出された管弦楽用の小幻想曲がそれだ。彼は1959年に亡くなったが、彼の東洋風のエキゾチズムをもった曲の数々は現在に至るまで広く親しまれている。

### □ フランツフォン・リスト (1811~1886)

リストは古今無比といわれた大ピアニスト、大作曲家であった。19世紀ヨーロッパ楽壇に君臨し、多くのすぐれた作曲家を世に紹介し、自身もピアノ曲多数を作ったほか、交響詩を創案して近代音楽の先駆者となった。エステルハーツィ家の領地管理人の子としてハンガリアの田舎に生まれ、幼時からピアノに長じて天才少年として知られた。ウィーンでリツェルニーにピアノをサリエリに作曲を学び、13歳でパリにおもむき忽ち第一流のピアニストとして名声をあげ各国を楽旅する。1859年ヴァイマルの宮廷楽長となり、歌劇や管弦楽曲の指揮者としての才能を発揮し、交響楽作曲家としての実力を大いに示した。

小牧音楽学園開設!! 各科音楽教授・貸スタジオ有り★

## どなたでも申し込める分割払い

■詳細については当店の係員にご相談くださいませ



# コマキ楽器

東京雷門1丁目16~4  
TEL (842) 6041(代表)



